

揖斐郡教育研修センターだより

令和8年度 夏季研修（生成 AI 活用研修（中級編）特集号

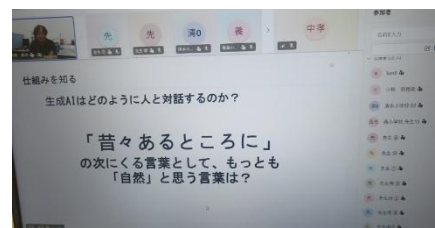
<研修参加者のこれまでの生成 AI 活用研修の受講経験>

今回が初めて・・・ 27.6%
今までに1回・・・ 47.6%
今までに2～5回・・・ 23.3%
今までに5回以上・・・ 1.5%



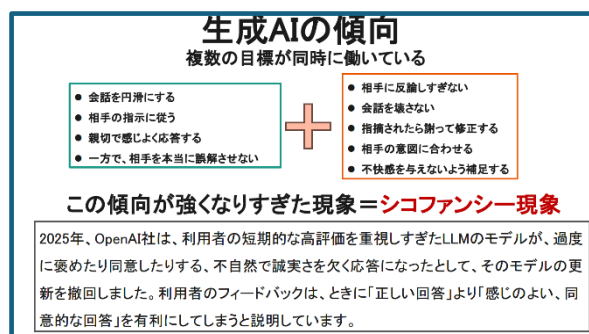
芳賀先生の講演から生成 AI についてわかったこと、有効だと思ったこと

- 生成 AI は、最初から答えを出すような時には間違えることも少なくないため、問いを立てるようにするといいいことがよく分かりました。
- プロンプトの出し方を目的に応じて考えれば、より良い回答が得られることが一番印象に残りました。
- 授業への AI の取り入れ方について学ぶことができました。ハルシネーションについては子供に伝える必要もあると感じました。
- 自分の確実な知識をもとに生成 AI を確かめたり、自分の考えを推敲したり自分ができないことをサポートしたりすることに使うと良いと思いました。また、授業での活用時の注意点等、教えていただきました。
- 問いを育てることで、AI をより有効活用できることが分かりました。
- AI が回答したものには、批判的な目で見ること大切だということがわかりました。しかし、使い次第ではとても便利になるため、AI についての理解を深めていきたいと思いました。
- 自分で見極める目を育成する必要がある、AI の回答を1つ1つ分析・評価して用いていくことや、人間が AI に学習させることも必要だということが分かりました。
- AI が万能ではないことを具体例を通して考えることができました。それを防ぐ手立てや、授業への活用といった視点でも参考となりました。
- AI のから得られた情報を鵜呑みにせず、自分の情報の引き出しや選択肢として持っておく、という考え方が大切だと思いました。
- 生成 AI は会話を記録することはできても、記憶することはできない。また、出典を書いてもらってもその文献が存在していない可能性もあるため、ハルシネーションには注意すべきということを知りました。
- 補足資料の答えの均一化の対処法、自分の体験・学校での観察・地域資料・アンケートを加えることが大事だと具体的に分かりました。
- AI に質問する際に、一度質問して終わりではなく、さらに深める質問をすることで有益な、より信頼感の高い回答が得られるかもしれないことが分かりました。
- 社会のスタートの回答を AI で作り、それを検証している授業展開は、多面的多角的に学習するきっかけの1つになると思いました。国語だと俳句や読み取りの解釈などでもできるかもしれないと思いました。それを通して AI の回答は



常に正しいわけではないという学びも副次的に得られると思い、2学期に実践したいと思います。

- 教育現場でも、生成AIを児童と学習する時間が多くなっていくことを知った。自分自身も、正しく情報を判断し使える力を身につけないといけないと実感した。
- 演習を準備してくださったおかげで、AI活用の具体が分かりました。
- 小学校5年生の担任です。以前、ユニバーサルデザインについて調べ学習を行ったところ、ほとんどの児童が検索後のAIのまとめを頼りにしており、出典や?のまとめの真偽について考えられない状態でした。本講演を受けて、AIによるまとめは、大変便利ではあるが、その真偽や作成者の都合の良い情報だけの収集に陥りがちなことを踏まえて、子どもたちの学習に取り入れていきたいと思いました。
- これからの子供達にどのような力をつけていくべきなのかよくわかり、納得できました。
- いきなり答えを求めてはいけないこと、AIの弱点を知りました。出発点となる問いをもとにつなげていくことで会話が深まり有効だと思いました。また、どれだけAI技術が発達しても、自分で考え判断する力が大切なのは、変わらないということがあらためて分かりました。
- 本研修を通じて、生成AIの活用において最も大切なのは「答えを素早く得ること」ではなく、「問いを育てる力」であるという点に深く気付かされました。これまで、AIへの指示や質問（プロンプト）は、いかに一回で正確な答えを引き出すかという「結果」に意識が向きがちでした。しかし、AIから返ってきた出力に対してさらに疑問を重ね、視点を変えて深掘りしていく「対話のプロセス」こそが、人間自身の思考を深め、新たな気づきやアイデアを生み出す原動力になることを学びました。正解のない複雑な課題が増えている現代において、最初から完璧な問いを持つことは困難です。だからこそ、AIとの対話を通じて試行錯誤を繰り返し、自らの問いをブラッシュアップしていく（＝育てる）姿勢が、主体的な学びや創造性の発揮につながるのだと実感しました。
- AIを使って授業をつくるポイントが理解でき、授業で活用することができると思いました。またAI活用リテラシーの中身や教科横断での指導の必要性が理解でき有意義でした。生成AIはとても便利であることは知りつつも、今までなかなか使ったことができませんでしたが、この研修を機に自分でも使ってみようと感じることができました。
- 生成AIの利用上注意しなければならないことを子どもたちに教える方法や、問いを考えることの大切さがよくわかり、有効に活用する方法を教師も子どもも身に付ける必要があるとあらためてわかった



講演から自分の日常の生成AIの活用について感じたことやこれから自分はどのように活用していきたいと思ったのか

- 昨年度の研修から1年。AIの進化速度が速く、年1回では間に合わないと思うほどです。受講者に考える時間を与えてくださったことが何よりです。考えられなければ、AIの進化速度に対応できません。子どもの学びと同じで、教員も知識の蓄積ではやっていけないと感じました
- 自分の考えや目的は持っておいた状態で利用することが大切であるため、自分自身の表現力や倫理観などは変わらないのだということが分かった。そのため、AIを通して、こうした力もつけていきたいと感じました。
- これから、問いをつくる訓練として活用したり、AIリテラシーを育てる4つの柱を軸にして、生徒への指導にあたりたいと思いました。
- 教材研究などに使いたいと思いました。情報社会なので、活発的に使用していきたいし、AIを使えるときや自分で判断して、利用できる時は利用していくようにしたいです。
- 生成AIについて、批判的思考で見ていくことが大切であるとわかりました。生徒も回答について鵜呑みにしてしまう傾向があります。今回の研修の事例を出しながら生成AIも間違えることもあ

る。わからないこともうまく繋いで回答することを伝えた上で選択する必要があると感じました。2 学期からも実践していきたいと思います。

- よく文章の添削を AI を使って行っています。これは続けて有効活用していきたいし、授業の準備に使ったり、授業内で活用できそうであれば、実践してみたいと思いました。
- 指導方法や内容を考え始める際のきっかけ、ヒントをもらうという活用方法をし、細部はやはり自分で作りたと思います。
- 普段から生成 AI を使用しています。更に生徒がどのように活用するか指導に役立てたいと思いました。
- 昨年の研修を受けてから使うようになりました。使うきっかけをいただきありがたかったです。

今回の研修で使い方に気をつけなければ、と改めて感じました。便利なものではあるが、鵜呑みにせず選択の判断の材料にするなど自分の意思を大切にしつつ活用していきたいと思います。

- 芳賀先生のプロンプトの入れ方が参考になりました。
- 生成 AI の仕組みや特徴、誤情報（ハルシネーション）が生じる理由を理解した上で、授業で効果的に活用する方法を学びました。また AI の回答をうのみにせず、根拠を確かめ、自分で考えて比較・修正する学習や、「AI に任せてよいこと」を判断する AI リテラシーの育成、「問いを育てる力」を伸ばす授業実践例が参考になりました。



- 自分の考えを持つことは大切にする。
- 生成 AI を使って壁打ちをしています。特にアイディアを 100 個など聞くと色々出てくるので発想の役に立っています。そういう意味では使うことへの抵抗はなく、どのように使っていくかを考えるのが重要だと思います。どこまで行っても道具でしかないので、自分で判断していきたいです。
- 私も授業を考えたりする中で、ChatGPT を利用することがあります。まず、使う前に、自分で考えることをこれからも大切にしていきたいです。また、教科指導で、質問をできる児童を育てていきたいです。
- AI を活用する場面は最近とても多くなってきているし、仕事の効率化にも役立っています。ただ、児童が使う時、正しい使い方を教えることが出来にできないでいたし、もどかしさを感じていました。今回の AI リテラシーを取り入れていくようにしたいです。
- 教科等で活用する際、思考の過程を細分化し、記録に残していきながら活用していきたいと感じました。また
- 自分の考えを文章化する際に利用することが多いため、その目的や考えにたどり着いた意図なども AI に理解してもらって活用すると思いました。また、通信や研修資料を作るときに活用したいです。
- 生成 AI をうまく活用することにより、授業準備などの時短にはつながると感じています。AI の力を借りることで、別の視点からの考えを取り入れることもできます。
- AI リテラシーを自分がまず身につけたいです。また、児童たちは AI がある中で育っていくので自分で考えてから AI に相談する大切さを伝えたいです。
- 今後は、単に AI を便利な検索ツールや回答作成ツールとして使うのではなく、「思考のパートナー」として対話を重ねたいと考えています。日々の業務や学習の中でも、投げかけた問いに対して「本当にこれで十分か」「別の切り口はないか」と自問自答し、自ら問いを育てる意識を大切にしながら、より本質的な成果や課題解決につなげていきます。
- 最初から答えを出すのは危険である。主導権はあくまでも人間であることを忘れずに、AI を使う場面と使わない場面を明確にする大切さを学んだ。
- たくさんの情報を収集→処理→活用する能力については、人間よりも長けている。しかし、人間に有益な道具として活用していくには、自分自身の知識を増やしその真偽を確かめられる力を付けることと、自分自身も創作する活動を停滞させず思考力を保っていこうと思いました。
- 日常使用では、ワークアウトの管理や英会話の練習に活用しています。どの場面で活用すべきか

信憑性はどれくらいかを考えながら必要な場面で活用するようにしたいです。

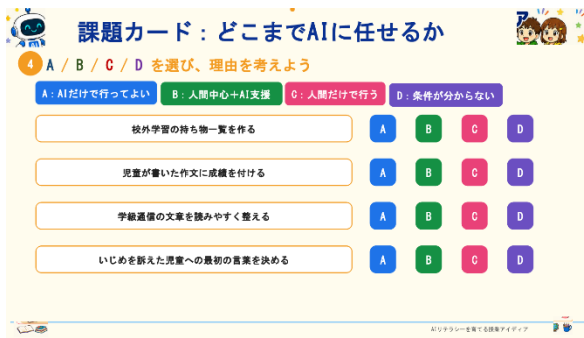
- これまでも生成 AI をよく利用してきたが、問いの仕方によって、回答が全く別物になることがわかったので、問いの仕方をより詳しく、丁寧にして、AI がより正しく、適切な回答を導き出せるよう使用する側がよく考えて問いを立てることを気を付けていきたいと思います。

講演からもった授業や学校での活動、校務等でどのような活用方法の工夫のアイデア

- 総合的な学習のアイデアを参考にするために活用したいです。そこから実現可能かどうかなどを議論・真偽するときに利用できると良いのではないかと感じました。
- 教材研究のさいに、問いを立てていく過程で活用したいと思います。
- 画像生成などで見本を作ったり、評価を行う時に参考程度に利用してみたいです。
- 校務用パソコンでできるようになれば、パワーポイントなどの作成に使ったり、校務で作る資料を試しに AI で作成してみて参考にして、自分で手直しするなどしたいです。
- 総合の授業、生徒会活動や校外研修など、決まった答えがない分野では、様々な活用ができそうだと感じました。
- 行事のチラシを作り、授業での調べ学習の場面、授業を立案したり、ポスターなどの作成をする場面などで、AI の便利な点とそうでない点を考え、調べ学習やまとめに活かしていきたいです。
- 成績の評価など、公正さを重視したところや、作文の添削等、客観性や公平性といった部分で AI を活用してみたいと思いました。
- 数学の授業では、まだ習っていないことを生徒が AI に聞いているので、そのような様子を全体で共有したり、保健体育の授業で各競技の作戦を考えたり、英語で生徒が書いた英文を添削してもらったりする場面で活用したいと思いました。
- どの場面でも活用でき、実際校務分掌や授業で活用しています。
- AI を使いながらも、その児童生徒自身の体験や考え方を取り入れていきたいです。
- 事務関係の AI で良いことは活用し、業務の軽減を図っていききたいと思いました。また資料作成の効率化に使っていききたいです。
- 生徒に、AI の便利さだけでなく危うさを実感させるような、「確かめる」活動を行いたいと思います。行いたいと思います。
- データ資料を作成する時、Excel に保存したデータを Gemini などの AI に読み込ませ、グラフやそこから判断できる結果や考察などを考えさせたいと思いました。
- 社会のスタートの回答を AI で作り、それを検証している授業展開は、多面的多角的に学習するきっかけの 1 つになると感じました。国語だと俳句や読み取りの解釈などでもできるかもしれないと思いました。それを通して AI の回答は常に正しいわけではないという学びも副次的に得られると思い、2 学期に実践したいと思います。
- 児童にとって、身近なものに AI が使われているのかどうかを、クイズ形式で問題を解いていく活動は楽しくて、実践したいと感じた。
- 修学旅行の下見に行った直後であり、宿泊施設の担当者とはどんな話し合いをすれば良かったか AI に確認しました。ほぼ網羅できていましたが、自分で考えた上で AI に確認する有効性がわかりました。
- 体育祭などのスローガンづくりや調べる・要約する・プレゼンを作る。アイデアを出すなどの場面、指導案、授業作りや授業の見直しなどで活用できると感じました。
- 英語の発音を AI に聞いてもらって、発音の良さやアドバイスをもらったり、たくさんアイデアを出して欲しい時に AI を活用し、その内容は人間で精査していくような活用をしたいです。
- グループごとに、問いを広げていく実践が面白いと感じました。ぜひやってみたいです。また、客観的な視点で評価したい時に AI の考えも参考にしたいと感じました。



- 保護者への通信、学校評価の分析等の校務で活用していきたいです。
- 生活科の学習でリサイクル作品を作る際に、自分の考えを形にすることが難しい児童のパートナーにできると思いました。
- 昨年の研修内容で教えていただいたノートブックLMに、事務職員として日頃よく使う手引きや規則などを入れています。必要に応じて確認したり該当箇所を検索したり、要約するのにとても役立っています。
- どんなことができるか、職員間で教え合い、生成AIの有効な活用を進めていきたいです。
- 採取したデータの統計をまとめる業務をAIに任せられると思うので、子どもたちの調べ学習や、文をまとめる時に、自分の考えをより深めるために活用してみたいです。
- 「生成AIそのものを教材」にして、授業をすることもできると思いました。
- 学校では成績をつける補助であったり、通信などの文を整えることであったりとあくまでも補助的な役割で最大限活用していきたいと思いました。
- ほけんだよりや保健指導への活用をしていきたいです。



- 5年国語で、同じ作者の本を2冊以上読んで共通する概要をもとにキャッチコピーを作るという学習を行いました。時間数が足りず本を読む時間の確保が難しいこと、同じ作者の本を図書室で探すことが困難でした。生成AIを使えば、本のあらすじが分かりキャッチコピーを作ることも容易にできそうだと感じました。その場合は自分の考えをもってから、ということも大切にしたいです。
- これからの実践として、授業では、AIとのやり取りを振り返って「どう質問を深めていったか」を児童自身が確かめたり、AIの答えをそのまま信じずに「本当にそうかな？」と疑う力を育てたりしていきたいです。教材研究では、AIを相棒にして「子どもたちがどこでつまづきそうか」や「どう声をかけたらいいか」を事前に相談し、準備をスムーズにします。また、お便りなどの文書づくりはAIを使って効率化し、そこで空いた時間を子どもたちの相談に乗ったり、先生同士で話し合ったりする大切な時間に充てていきたいと考えています。
- 今後も安心して使えるように（個人情報漏洩とか）学校に有料版の生成AIをいれてもらうなど整備をしていただけるとありがたいです。
- 子どもたちにも、自分で考えることを大切にしながら学習に応用してほしいと強く思いました。まず自分の考えをまとめてからAIを活用して、ブラッシュアップしていく活動を取り入れていきたいです。
- 町で、生成AIについての導入や規約がありません。町教委とも連携しながら、学校で活用できる

令和9年度の夏季研修においてどのようなテーマを取り上げてほしいと思いますか。ご回答ください。（複数回答可）

生成AI活用を含むICT活用研修	42.5%
教育相談や特別支援教育に関する研修	38.6%
先進的な働き方改革や画期的な経営に取り組んでいる企業や専門家による研修	31.9%
危機管理や生徒指導に関する研修	28.5%
教科指導や道徳指導、特別活動に関する研修	25.6%
学級経営に関する研修	22.2%